

監修のことば (敬称略)



(有)アグリテック代表取締役社長

中田 浩康

(I部「受け入れ編」監修・執筆)

なかだ ひろやす 東京農業大学卒業。1997年(社)農山漁村文化協会入り。2001年から北海道を拠点にフリーの農村ライターとして活動。03年のアグリテック設立と同時に入社。修学旅行の農業体験受け入れの他、体験プログラムの企画・運営、地域と観光客をつなぐコーディネーターなどを行う。地域力創造アドバイザー(総務省)。2012年から現職。1975年栃木県生まれ。

「農業体験受け入れは生産活動の一部」と話す農家があります。農業や農村の理解を深める場として、また将来「農家になりたい」と思えるような魅力を農家自身が発信することが必要ともいえます。食べ物や農業は大切—と分かっている、身近に農家や農村がない環境が増え、農業をイメージしづらくなる中、理解を深める活動はあえてやるべきことなのかもしれません。一方、体験の取り組みは多様で、I部の構成

に悩みました。これまで当社で受け入れてきた事例や、実際に受け入れをしている農家、また各受け入れ協議会や関係団体の活動や意見を参考に、「農家取り組みやすい」という視点で執筆しました。これから農業体験に取り組もうと考えている農家、実際に受け入れを行っている方の参考になれば幸いです。

最後に企画・編集に尽力いただきました編集部皆さまにお礼申し上げます。

(有)アグリテック(東川町)

地域資源を活用したグリーン・ツーリズムをはじめ、着地型観光による「観光まちづくり」を通し、交流人口増加による地域活性化を手伝う会社。<主な事業内容>体験観光企画/教育旅行企画/手配・調整システムの企画/観光コーディネート/観光マネジメント・コンサルタント/通販/体験農園運営/イベント企画/ほか地域活性化に関わる企画



(株)いただきますカンパニー代表取締役

井田 芙美子

(II部「伝え方編」監修・執筆)

いだ ふみこ 帯広畜産大学卒業後、10年間観光業に携わり、帯広市で2012年いただきますカンパニー設立。13年株式会社化。14年小学校へ出前授業を開始。農村ツーリズムコンサルタント。1980年札幌市生まれ、2児の母。

いただきますカンパニーは、2012年に農業専門のガイド業としてスタートしました。農業を知れば知るほど農繁期の生産者に農業体験の重要性は分かっている、受け入れをお願いするのは申し訳なく、「それなら地域の人間が受け入れられる仕組みをつくれればいい」と思ったからです。また生産者にせつかく案内していただいても、農業用語が難しく、一般の方に内容が十分伝わりにくい、という課題もありました。

生産者の人柄や熱意が伝わり、農業体験には満足していただけます。しかし、お互い貴重な時間を取るのであればきちんと理解し合いたい

もの。私たち畑ガイドは、農業や生産者の思いを分かりやすく伝える「翻訳者」として仕事をしてきました。今回はそのノウハウを整理し、伝える機会をいただき感謝しています。

生産者が農業体験の受け入れなど全てを担う必要はありません。しかし畑を訪れた人の暮らす環境や気持ちを思いやることは日々の生産活動にも生きるはずで、畑から食べる人を、食卓からつくり手を思い浮かべることができる社会づくりに貢献したいと思い執筆しました。食育活動での学校訪問、農業体験受け入れで、ご活用いただければ幸いです。



道総研農業研究本部企画調整部長

安積 大治

(III部「道内主要農産物」監修)

あさか だいじ 東京農工大学大学院修了。1987年道立中央農業試験場(現道総研中央農業試験場)入り。衛星リモートセンシングやGISを活用して、農地の生産特性や作物の生育状況を広域に把握・評価する手法の研究に取り組む。2018年から現職。1961年神奈川県生まれ。

豊かな自然環境に恵まれた北海道では水田や畑作、園芸、酪農など多様な農業が展開され、いろいろな農業体験を楽しむことができます。いま学校教育や社会教育における体験学習の場として、農業を活用する動きが広がっています。また旅行者に農村での生活を体験し農村地域の人々との交流を楽しんでもらったり、農村の魅力を味わってもらったりする「農泊」の取り組みも進んでいます。

農家が農業体験を受け入れるに当たっては、さまざまな苦勞や負担がありますが、分かりやすい教材が少ないこともその1つに挙げられま

す。III部では北海道の主要農産物14品目について、新品種や栽培技術の開発に取り組む農業試験場の研究者が品種や特徴、栽培の流れ、主な産地や生産量、栄養成分などを写真やイラストと共に紹介しています。農業を知らない人にも分かりやすい内容となっていますので、生産者の方々が、農業体験で訪れた小・中学生に説明する際の資料として活用できます。

さらに、現在、農業試験場で取り組んでいる研究についても簡単に触れていますので、小・中学生が北海道の農業、農作物への関心を持つきっかけになることを期待します。

III部 執筆者一覧 (敬称略)

- 【水稲】木下 雅文 道総研中央農業試験場生産研究部水田農業グループ主査(水稲育種)
- 【小麦】大西 志全 道総研北見農業試験場研究部麦類グループ主査(育種)
- 【大豆】鴻坂扶美子 道総研十勝農業試験場研究部大豆グループ主査(大豆)
- 【小豆】奥山 昌隆 道総研十勝農業試験場研究部小豆菜豆グループ主査(小豆菜豆)
- 【いんげん豆】齋藤 優介 道総研十勝農業試験場研究部小豆菜豆グループ研究主任
- 【馬鈴しょ】大波 正寿 道総研北見農業試験場研究部作物育種グループ主査(馬鈴しょ)
- 【てん菜】池谷 聡 道総研北見農業試験場研究部地域技術グループ研究主査
- 【にんじん】田縁 勝洋 道総研十勝農業試験場研究部地域技術グループ主査(畑作園芸)
- 【たまねぎ】杉山 裕 道総研北見農業試験場研究部地域技術グループ研究主任
- 【かぼちゃ】江原 清 道総研花・野菜技術センター研究部花き野菜グループ研究主任
- 【トマト】大久保進一 道総研花・野菜技術センター研究部花き野菜グループ主査(施設)
- 【牧草】牧野 司 道総研酪農試験場*草地研究部飼料環境グループ主査(作物)
- 【飼料用トウモロコシ】出口健三郎 道総研畜産試験場基盤研究部飼料環境グループ研究主幹
- 【生乳】谷川 珠子 道総研酪農試験場*酪農研究部乳牛グループ主査(飼養)

*2018年7月1日に根釧農業試験場から改称